

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	飯田市立伊賀良小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	4	5	4	3	29	52
児童数	134	127	153	152	165	150	17	898	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせる算数科指導のあり方
 ~ 「わかる楽しさ・できる喜び」を味わうことのできる
 習熟度別学習はどうあったらよいか ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 第5学年 第6学年 算数 習熟度別学習
- ・ 理解や習熟の程度に差が生じがちな高学年に習熟度別学習を導入し、個に応じたきめ細かな指導を行えば、児童が「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感しながら、「確かな学力」を身に付けていくことができるのではないかと考えたため。

(2) 年次ごとの計画

【平成15年度】

テーマ
 一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせる算数科指導のあり方
 ~ 「わかる楽しさ・できる喜び」を味わうことのできる
 習熟度別学習はどうあったらよいか ~

研究の見通し
 理解や習熟の程度に応じた指導方法・指導体制で、個に応じたきめ細かな指導を行えば、一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと考えた。個に応じたきめ細かな指導を行うために学力の評価を工夫・改善すれば、一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと考えた。

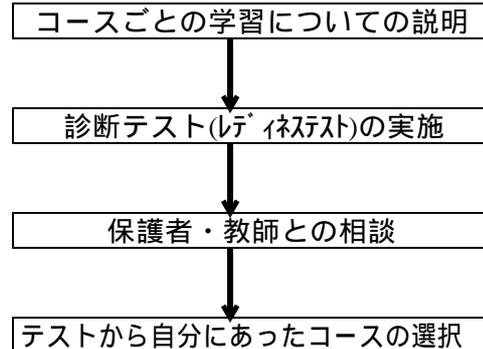
研究の内容・方法
 理解や習熟の程度に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
 《習熟度別学習への取り組み》
 高学年になると、自分の算数の力のある程度自己評価する力が育ってきている。自分に合った学習スタイルやペースも分かっている児童が多い。そこで、学習内容の異なる2つにコースを設定し、自分に合ったコースを選択させて、習熟度別学習を実施した。

【コース編成及び指導計画】
 1学級を基礎的・基本的な内容について納得いくまで取り組む「じっくりコース」と発展的な内容も加えて学習する「どんどんコース」の2つにわけてコース編成をした。コース編成は单元ごとに行った。
 どちらのコースも教科書の内容は確実に指導することを基本とした。

じゅくり コース	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導に重点を置き，一人一人がめあてや興味・関心を持って自分のペースでじっくりと課題に取り組みながら，学習が進められるようにする。 ・学習の場面を理解しやすくするために，具体物を操作したり，既習学習に戻って考えたりするなどの手だてをとる。
どんでん コース	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容に沿った授業を展開する。 ・自力解決を大切にするとともに，一人一人が考えを出し合いながら，考えを深める学習が進められるようにする。また，多様な練習問題など発展的な内容にも挑戦する。

【コース選択の流れ】

習熟度別学習を行うにあたっては，児童自身が自分の理解や習熟の程度に合ったコースを選択できることが重要である。保護者の理解を得るためにも，教師主導でコースを決定する方法はふさわしくないと考えた。また，児童自身の選択を大切にすることは，学習意欲を低下させないための手だてともなる。そこで，コース選択にあたっては，児童が自分にあつたコースを選択できるようにするために，右のような流れを考えた。まず，教師が各コースの学習の進め方について説明し，その後，一人一人の既習や習熟の程度をより正しく把握するための診断テスト（レディネステスト）を実施し，保護者と教師との相談を行いながら，自己選択させた。



学力の評価の工夫・改善

【学習過程での自己評価の実施】

児童の自己評価力を高め，自分に合ったコースを選択したり，次の課題を見つけたりする力をつけると共に，教師が一人一人の児童の理解の程度や思いを見取り，指導に役立ていくことが重要であると考えた。そこで，1時間ごとに児童にその時間の評価規準を伝え，授業終了時に学習を振り返り，自己評価させる時間を設けた。

【自己評価の内容】

教師が示した評価基準に対するA・B・C評価をさせるとともに，学習に関する思い・疑問・発見・喜び・悩みなどを「学習の感想」として書かせ，自己を見つめさせていくようにさせた。

【個に応じた指導への反映】

授業後に提出されたノートおよび評価カードをから，一人一人の児童が学習内容を理解しているかどうかを調べたり，その時間の指導を振り返り，次時の支援を考えたりする材料とした。

【平成16年度】

テーマ

一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせる算数科指導のあり方

～ 「わかる楽しさ・できる喜び」を味わうことのできるTT学習・

少人数学習・習熟度別学習はどうあったらよいか～

研究の見通し

TT学習・少人数学習・習熟度別学習において，個に応じたきめ細かな指導を行えば，一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと。きめ細かな指導を行うための学力の評価を工夫・改善すれば，一人一人の児童に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと。

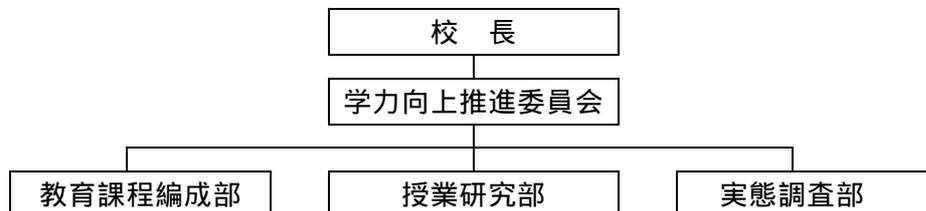
研究の内容・方法

全学年を対象とした「確かな学力」を身に付けるための算数科指導のあり方について研究を行う。

1～2年 TT学習 3～4年 少人数学習 5～6年 習熟度別学習

個に応じたきめ細かな指導を行うための、学力の評価の工夫・改善のあり方について研究を行う。

< 研究推進体制 >



- ・ 学力向上推進委員会・・・研究計画の策定・各部の連携及び調整・保護者への広報活動
- ・ 授業研究部・・・習熟度別学習・少人数学習・TT学習についての研究
- ・ 教育課程編成部・・・学力向上のためのドリル学習と日課表の検討
- ・ 実態調査部・・・意識調査・学力テストの実施及び分析・個に応じた評価規準の作成

平成15年の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

児童が意欲的に学習に取り組んだ

- ・ 児童が習熟度別学習をどのように受け止めているのかを把握するために意識調査を実施した。その結果、習熟度別学習を約85%の児童が「とても好き」「どちらかと言えば好き」と回答している。また、「習熟度別学習により算数ができるようになったと思いますか」という問いに対しても、約85%の児童が「とてもそう思う」「すこしそう思う」と答えている。これらのことから、習熟度別学習は児童に好意的に受け入れられた学習であったと考えられる。
- ・ 習熟度別学習のよさについて調査した結果からは、「教え合いができる」「自分のペースで学習ができる」「発言がしやすい」「質問がしやすい」など、意欲的に学習に取り組めた姿を伺うことができた。また、次のような感想も見られた。
個に応じた指導が可能となった

- ・ 苦手だった算数がわかるようになってきて、楽しくなってきた。
- ・ このコースだと、わからない時は、先生が回ってくるので、質問しやすい。それに友だちと教え合いができるから、とってもいい。

- ・ 習熟度別学習を行うことにより、児童の学習活動に目が行き届くようになった。また、一人一人にかかわる時間や回数が増え、個に応じた支援が可能になった。
- ・ 児童一人一人の学習状況を複数の教師が共有することになり、児童理解に深まりが見られた。
- ・ コースごとに学習内容や学習形態を工夫したことにより、一人一人が生き生きと活動しながら、基礎・基本を身に付けることができるようになった。
- ・ 1時間ごとの自己評価を位置づけたことより、それぞれの子どもの学習に対する評価ができ、理解が十分でない子どもには、個別の指導を行うことができた。

2. 今後の課題

- ・より効果的な習熟度別学習に取り組むためには、1時間ごとの児童の学習状況を適切に評価していく必要がある。評価を正確に、しかも負担にならないように行うには、どのような方法がよいか研究を深める。
- ・習熟度別の学習集団を形成する際に、適切なコース選択ができない児童も見受けられた。このことから、コース選択の場面において、各コースの学習内容をわかりやすく説明する時間を設けたり、自己評価の場面や方法を工夫したり、児童一人一人が自分に合ったコース選択ができるようにする。
- ・個人差に応じた指導を一層推進するために、学力テストの分析や意識調査を生かし、一人一人の児童の実態をとらえ、基礎・基本を確実に身に付けさせる手だてを明らかにする。
- ・習熟度別学習は、どの学年のどの単元でより効果的な指導といえるのか、実践を通して得られた知見を累積し、次年度の実践に生かしていく。
- ・教師の指導力によって、児童の学習成果に大きな差がでないようにするために校内研修の充実を図る。
- ・少人数学習や習熟度別学習の取り組みに対して、保護者への説明責任を果たし、より一層の理解を得る必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・学力調査（C R T）を全学年において実施している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・地区の学力向上推進協議会の場で、本校の研究内容や方向性についての説明を行った。
- ・本校の公式ホームページ（<http://www.igarasc.ed.iidanet.jp/>）上で、研究内容を公開する予定。
- ・平成16年11月頃（期日未定）、公開研究会を実施する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無